

どうして？
みずたま せかい
水玉の世界

くさまやよいびじゅつかん
草間彌生美術館へようこそ！



びじゅつかん い ぐち みずたま み
美術館の入り口にも、水玉が見えますね。
み
見つけれられるかな・・・？

くさまやよい みずたま さくひん
草間彌生さんは水玉の作品をたくさんつくっています。
きょう みずたま かんが
今日は、この「水玉」について考えてみましょう。

① 草間さんはいつから水玉の作品をつくっているのでしょうか？



木下 退四郎 《無題》(1939)

これは、10才くらいのときに描いた絵です。
ひょっとしたら、みなさんと同じ年かもしれませんね。

この絵に描かれている人はだれなのでしょう？
かみが長くてお着物を着ています。お母さんかな？
みなさんも、家族やお友達など、身近な人の絵を描いたことがあるかもしれませんが、この絵には少し不思議なところがありますね。

顔や髪の毛、着物、周り・・・
全てが水玉でおおわれています。

なぜ、このような絵を描いたのでしょうか。

彼女は小さいころ、部屋中、身体中が水玉におおわれてしまう幻を見ていたといいます。

この絵は、幻をみた体験を思わせます。
草間さんは、幻に絵に描くことで、恐ろしさや驚きをしずめていました。

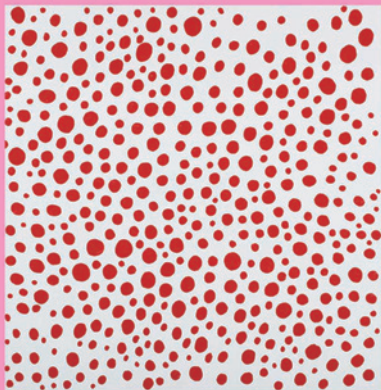
世界中をおおう水玉から逃げるのではなく、それを作品にしていきました。

作品にすることで、水玉は草間さんにとって、大切なものになっていきました。

② いろいろな作品の水玉をみてみましょう！

かいが
絵画

いろいろな大きさの水玉があるね



《天空の果てに住みて》(2016)

大人の身長より大きなサイズの作品です。
草間さんが、大きなキャンパスにひとつひとつ水玉を描
いているところを想像してみましょう。

ちょうこく
彫刻

草間さんはかぼちゃの作品
もたくさんつくっているよ



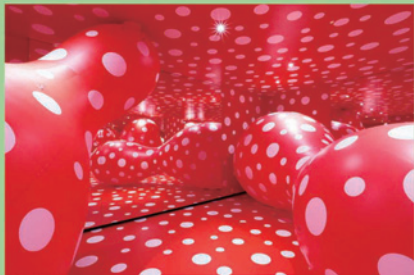
《PUMPKIN》(2015)

いろいろな色の水玉があるね

銀色に光るかぼちゃの彫刻です。
前に立つと自分の姿が水玉の間に映って見えます。

インスタレーション

モノだけでなく、
空間全体が作品になってしまうのが
インスタレーションです。



あざとまさんくさ
《水玉強迫》(2015)

よくみるとふしぎな形が見えてきませんか？
中に何があるのかわからないくらいすべてが水玉
でうめつくされています。

パフォーマンス

自分も周りも水玉だらけ・・・

さっきみた10才のころの絵
に似ているね



《Self-Obliteration by Dots》(1968)



作ったモノだけでなく、作家自身が動いて見せる
こと自体が作品になります。この写真は、その
作品の様子を記録したものです。
壁や自分の体に水玉をはることで、周りとの
区別がなくなっていくます。

③ 草間さん自身は水玉について、 何と言っているのでしょうか？

さくひん 作品にこめられた意味を、作家の言葉から想像してみましよう。

いっこ みずたま じぶん せいめい
「一個の水玉である自分の生命を見たい。」

なん
「ピカソでもマチスでも何でもこい。」

わたし みずたまひと た む
「私はこの水玉一つで立ち向かってやる」

むげん あみ くさまやよいじでん
『無限の網 草間彌生自伝』より

くさま 草間さんにとって水玉は、自分自身でもあるのかもしれませんが。
げいじゅつか みずたま つよ おも
ん。芸術家として、水玉に強い思いをこめていることが伝わってきます。

びじゅつかん さくひん
この美術館では、たくさんの作品をみることができます。

くさま き も さくひん
草間さんはどんな気持ちでそれぞれの作品をつくったのでしょうか？

いっしょ き ひと はな
ぜひ、一緒に来た人とお話ししてみてください。